

児童養護施設入所児童等調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査の実施日

平成25年2月1日（前回調査は平成20年2月1日）

2 調査の対象及び客体

全国の里親委託児童、児童養護施設の入所児童、情緒障害児短期治療施設の入所児童、児童自立支援施設の入所児童、乳児院の入所児童、母子生活支援施設の児童並びに保護者、ファミリーホーム委託児童、自立援助ホーム入居児童を対象とし、その全員を調査客体として実施。

客体：里親委託児童4,534人、児童養護施設入所児童29,979人（内、中学3年以上の年長児童8,412人）、情緒障害児短期治療施設入所児童1,235人、児童自立支援施設入所児童1,670人（内、中学3年以上の年長児童810人）、乳児院入所児童3,147人、母子生活支援施設入所世帯3,725世帯及び当該児童6,006人、ファミリーホーム委託児童829人、自立援助ホーム入居児童376人

II 結果の概要

1 児童の状況

| | 児童総数 | 性別 | | 平均年齢 | 委託（入所）時の平均年齢 | 平均委託・在所期間 |
|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| | | 男 | 女 | | | |
| 里親委託児 | 4,534人 (3,611) | 2,291人 (1,817) | 2,234人 (1,790) | 9.9歳 (9.3) | 6.3歳 (5.5) | 3.9年 (3.9) |
| 養護施設児 | 29,979人 (31,593) | 16,108人 (16,908) | 13,685人 (14,555) | 11.2歳 (10.6) | 6.2歳 (5.9) | 4.9年 (4.6) |
| 情緒障害児 | 1,235人 (1,104) | 721人 (641) | 506人 (462) | 12.7歳 (12.4) | 10.6歳 (10.6) | 2.1年 (1.9) |
| 自立施設児 | 1,670人 (1,995) | 1,185人 (1,355) | 481人 (622) | 14.1歳 (14.2) | 13.1歳 (13.1) | 1.0年 (1.1) |
| 乳児院児 | 3,147人 (3,299) | 1,665人 (1,826) | 1,467人 (1,467) | 1.2歳 (1.2) | 0.3歳 (0.3) | 1.2年 (1.1) |
| 母子施設児 | 6,006人 (6,552) | 3,059人 (3,257) | 2,931人 (3,272) | 7.4歳 (7.3) | 5.2歳 (5.2) | * (*) |
| ファミリーホーム児 | 829人 (*) | 443人 (*) | 382人 (*) | 11.2歳 (*) | 8.4歳 (*) | 2.9年 (*) |
| 援助ホーム児 | 376人 (*) | 180人 (*) | 196人 (*) | 17.5歳 (*) | 17.0歳 (*) | 0.9年 (*) |

注) () は前回調査。*は調査項目としていない。児童総数には性別不詳を含む。

(1) 現在委託中の児童数等（別添2 P2表1、P3表2、P4表3）

～社会的養護の対象児童は約48,000人～

- 里親、ファミリーホーム委託児童及び入所児童（母子生活支援施設及び自立援助ホームを含む）の総数は47,776人（前回調査48,154人）となっている。
- 平均年齢は、里親委託児が9.9歳（同9.3歳）、養護施設児が11.2歳（同10.6歳）などとなっている。
また、委託（入所）時の平均年齢は、里親委託児が6.3歳（同5.5歳）、養護施設児が6.2歳（5.9歳）などとなっている。

(2) 委託（入所）経路（同 P5表4）

～「家庭から」の割合が最も多い～

- 委託（入所）経路は、「家庭から」が里親委託児で47.0%（同44.3%）、養護施設児で68.2%（同71.5%）、情緒障害児で76.0%（同79.8%）、自立施設児で61.0%（同63.5%）、乳児院児で76.1%（同86.2%）、ファミリーホーム児で42.9%、援助ホーム児で47.1%と最も多くなっている。

(3) 就学状況（同 P5表5）

～里親委託児、母子施設児は「就学前」の割合が多い～

- 就学状況については、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ30.3%（同34.0%）、43.7%（同42.1%）となっており、養護施設児、情緒障害児、自立施設児及びファミリーホーム児では「中学校」が最も多く、それぞれ23.7%（同22.7%）、41.4%（同40.6%）、80.5%（同74.0%）、21.7%となっている。

(4) 心身の状況（同 P6表6）

～養護施設児の約3割が「障害等あり」～

- 心身の状況については、「障害等あり」の割合が里親委託児20.6%（同18.0%）、養護施設児28.5%（同23.4%）、情緒障害児72.9%（同70.7%）、自立施設児46.7%（同35.4%）、乳児院児28.2%（同32.3%）、ファミリーホーム児37.9%、援助ホーム児37.0%となっている。

(5) 特に指導上留意している点（同 P7表8-1、表8-2）

～「心の安定」が各施設に共通～

- 特に指導上留意している点については、「心の安定」が各施設に共通している傾向にあるが、里親委託児では次いで「里親との関係」（39.3%）、養護施設児では「家族との関係」（56.1%）などとなっている。

(6) 学業の状況 (同 P8 表 9)

～情緒障害児、自立施設児は「遅れがある」の割合が多い～

- 学業の状況は、里親委託児、養護施設児及びファミリーホーム児では「特に問題なし」が最も高く、それぞれ 47.1% (同 43.9%)、48.9% (同 47.8%)、41.7% となっている。

また、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、それぞれ 51.5% (同 53.4%)、59.3% (同 64.0%) となっている。

2 委託 (入所) 時の家庭の状況

(1) 養護問題発生理由 (同 P9 表 11)

～虐待を理由とする委託 (入所) の割合が多い～

- 養護問題発生理由の主なものは、里親委託児の場合には「養育拒否」16.5% (同 16.0%)、「父又は母の死亡」11.4% (同 6.6%) であり、養護施設児の場合には「父又は母の虐待・酷使」18.1% (同 14.4%)、「父又は母の放任・怠だ」14.7% (同 13.8%) などとなっている。

- 一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の 37.4% (同 36.7%)、養護施設児 37.9% (同 33.1%)、情緒障害児 50.0% (同 47.9%)、自立施設児 41.7% (同 45.8%)、乳児院児 27.1% (同 27.2%)、ファミリーホーム児 38.4%、援助ホーム児 35.6% となっている。

(2) 被虐待経験の有無及び虐待の種類 (同 P10 表 12)

～養護施設児の約 6 割が「被虐待経験あり」～

- 被虐待経験の有無について「被虐待経験あり」は、里親委託児で 31.1% (同 31.5%)、養護施設児で 59.5% (同 53.4%)、情緒障害児で 71.2% (同 71.6%)、自立施設児で 58.5% (同 65.9%)、乳児院児で 35.5% (同 32.3%)、母子施設児で 50.1% (同 41.4%)、ファミリーホーム児で 55.4%、援助ホーム児で 65.7% となっている。

- 虐待の種類は、里親委託児、養護施設児、乳児院児及びファミリーホーム児ではネグレクトが最も多く、その割合は 68.5% (同 67.1%)、63.7% (同 66.2%)、73.9% (同 71.4%)、63.6% となっている。

また、情緒障害児、自立施設児及び援助ホーム児では身体的虐待が最も多く、その割合は 64.7% (同 60.5%)、60.5% (同 59.5%)、53.0% となっている。母子施設児では心理的虐待が最も多く、その割合は 78.0% (同 73.8%) となっている。

3 委託（入所）時の保護者の状況（同 P11 表 13-1～表 13-3）

～里親委託児の約 5 割、養護施設児の約 8 割が「両親又は一人親あり」～

- 委託（入所）時の保護者の状況は、「両親又は一人親あり」が、里親委託児で 52.2%（同 67.7%）、養護施設児で 81.7%（同 83.2%）、情緒障害児で 88.0%（同 87.3%）、自立施設児で 86.5%（同 87.7%）、乳児院児で 96.6%（同 89.0%）、ファミリーホーム児で 67.3%、援助ホーム児で 71.5%となっている。

4 家族との関係

（1）家族との交流関係（同 P12 表 14-1）

～里親委託児の約 7 割、養護施設児の約 2 割が「交流なし」～

- 家族との交流関係について「交流なし」の割合は、里親委託児で 72.4%（同 71.9%）、養護施設児で 18.0%（同 16.1%）、情緒障害児で 14.8%（同 9.0%）、自立施設児で 10.8%（同 7.3%）、乳児院児で 19.4%（同 20.2%）、ファミリーホーム児で 40.5%、援助ホーム児で 41.2%となっている。

（2）児童の今後の見通し（同 P13 表 15-1、表 15-2）

～「保護者のもとへ復帰」見通しの児童は里親委託児約 1 割、養護施設児約 3 割～

- 児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」が 68.5%（同 60.9%）、「保護者のもとへ復帰」が 10.7%（同 13.8%）となっている。また、養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」が 55.1%（同 55.1%）、「保護者のもとへ復帰」が 27.8%（同 35.4%）となっている。

5 児童を委託されている里親家庭の状況

（1）里親申込みの動機（同 P14 表 16）

～約 4 割が「児童福祉の理解から」里親を申込み～

- 現に委託されている里親家庭の総数は、3,481 世帯となっており、前回調査の 2,626 世帯より 855 世帯（32.6%）増加している。
- 里親申込みの動機別では、「児童福祉への理解から」が 43.5%（同 37.1%）、「子どもを育てたいから」が 30.7%（同 31.4%）、「養子を得たいため」が 12.5%（同 21.8%）となっている。

（2）委託児童数（同 P14 表 18）

～約 7 割が委託児童数 1 人～

- 委託児童数は、「1 人」が 74.3%（同 51.8%）、「2 人」が 19.1%（同 25.0%）、「3 人」が 5.1%（同 11.1%）、「4 人」が 1.5%（同 5.7%）となっている。

(3) 里親の年齢など (同 P15 表 19、表 20)

～約 3 割が 50 歳代～

- 里親の年齢は、「50 歳代」が里父・里母合わせて (31.9%)、「60 歳以上」が里父・里母合わせて (29.6%) となっている。
- 就業している里親の仕事の種類は、「専門・技術」が 18.6% (同 19.2%)、「事務」が 11.0% (同 12.8%)、「宗教家」が 10.7% (同 10.3%) となっている。

6 母子生活支援施設入所世帯の状況

(1) 児童数 (同 P16 表 23)

～入所世帯の約 6 割が児童 1 人～

- 母子生活支援施設入所世帯数は 3,725 世帯となっており、前回調査の 4,056 世帯より 331 世帯 (8.2%) 減少している。
- 母子生活支援施設入所世帯の児童数は、「1 人」が 56.8% (同 55.4%)、「2 人」が 29.8% (同 31.2%) となっている。

(2) 入所理由 (同 P16 表 24)

～約 5 割が「配偶者からの暴力」による入所～

- 入所理由は、「配偶者からの暴力」が 45.7% (同 40.8%) と最も多く、これに次いで「経済的理由による」が 18.7% (同 24.6%)、「住宅事情による」が 15.9% (同 15.3%) となっている。

(3) 従業上の地位 (同 P18 表 31-1)

～就業している母親は約 7 割～

- 母子生活支援施設入所世帯の母親の 66.1% (同 74.6%) は就業している。就業している母親では、「臨時・日雇・パート」が 50.3% (同 53.5%)、「常用勤労者」が 13.6% (同 19.0%) となっている。

7 児童養護施設の年長児童 (中学 3 年生以上) の状況

(1) 就学状況 (同 P20 表 35)

～約 3 割が中学 3 年生～

- 回答が得られた中学 3 年生以上の年長児童数は、8,412 人 (同 7,265 人) となっている。また、就学状況別では「中学 3 年生」が 29.5% (同 33.1%) となっている。

(2) 高等学校等進学希望 (同 P22 表 38、表 39)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 3 割～

- 中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学希望については、「希望する」が 85.0% (同 84.5%)、「考えていない」が 8.4% (同 8.3%)、「希望していない」が 5.2% (同 5.8%) となっている。
- また、年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望については、「希望する」が 27.0% (同 25.7%)、「考えていない」が 30.1% (同 28.1%)、「希望しない」が 37.2% (同 40.7%) となっている。

(3) 将来の希望 (同 P24 表 41)

～家庭復帰を希望する年長児童は約 3 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 34.4% (同 37.7%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 29.1% (同 31.3%) となっている。

8 児童自立支援施設の年長児童 (中学 3 年生以上) の状況

(1) 就学状況 (同 P25 表 43)

～約 8 割が中学 3 年生～

- 回答が得られた中学 3 年生以上の年長児童数は、810 人 (同 1,019 人) となっている。また、就学状況別では「中学 3 年生」が 81.5% (同 72.5%) となっている。

(2) 高等学校等進学希望 (同 P27 表 46、表 47)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 3 割～

- 中学 3 年生の高等学校又は各種学校への進学希望については、「希望する」が 83.2% (同 77.4%)、「考えていない」が 6.5% (同 7.2%)、「希望していない」が 9.2% (同 14.9%) となっている。
- また、年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望は、「希望する」25.2% (同 23.5%)、「考えていない」37.0% (同 33.1%)、「希望しない」34.1% (同 41.5%) となっている。

(3) 将来の希望 (同 P28 表 49)

～家庭復帰を希望する年長児童は約 8 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 77.4% (同 74.7%)、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 53.8% (同 51.9%) となっている。

9 自立援助ホームの児童の状況

(1) 就学状況 (同 P29 表 51)

～約 2 割が中学卒業生～

- 回答が得られた児童数は、349 人となっている。また、就学状況別では「中学卒業生」が最も多く、22.3%となっている。

(2) 大学 (短大) 進学希望 (同 P31 表 54)

～大学 (短期大学) 進学を希望する年長児童は約 2 割～

- 児童の大学又は短期大学への進学希望については、「希望する」が 24.9%、「考えていない」が 35.5%、「希望しない」が 36.1%となっている。

(3) 将来の希望 (同 P32 表 56)

～家庭復帰を希望する児童は約 2 割～

- もとの家庭への復帰希望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童が 16.9%、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童が 33.0%となっている。